

拡大する南朝鮮人民の不屈の決起、学生

労働者、農民の闘いに支持連帯せよ！

今、南朝鮮における階級闘争はあるの六〇年四・一九前夜にも、反民衆的な今日の横暴を傍観できようか。昨今の済州島被服労働者らの生存のための孤独な闘争にわれわれは顔をそむけ、の反朴・反日・民主・統一の死をも恐れぬ決起に全力をもつて てはならない。」

略反革命を内戦に転化せよ」の総路線の下、歴史的大激闘民族・民権闘争が勝利する日まで、いかなる彈圧にも屈せず、を戦取していかねばならない。

十一月十一日、ソウル大学で、十月七日につづき、一千を越える学生が、KCIA・機動隊を圧倒し、反朴・反日の一大決起をかちとった。当日、大字構内において、「民主救國宣言文」が発せられ、ただちに数百の学生が、戦闘的デモと、図書館前にバリケードを構築した。機動隊との一歩もひるまぬ対峙戦が開始されるや、大学構内は、一千をこえる学生の決起でうめくされ、五時間にわたるバリケード戦が闘いぬかれた。発表された「民主救國宣言文」は次のように述べている。

さるに①李承護国団撤廃、②十・七デモに対する処罰白紙撤回、③労働・権の保障、農民の血と汗の保障、④朴東宣事件の糾明・処罰、⑤大統領緊急措置9号即刻解除、拘束人士の無条件放、⑥維新憲法撤廃を決議している。

この十一・一ソウル大決起は、わざわざ組織性をもち、かつ五時間にわたるバリケード戦、武装対峙戦として闘いぬかれたこと、さらに労働者、青年、農民の闘いとの連帶を意識的にめざしたものとして、南朝鮮学生運動の新たな飛躍、力量の増大

迫としまんで彈圧し、農民らの血と汗を低米価政策で収奪する
三・一そして四・一九の革命的伝統をもつ南朝鮮学生運動の

革命よ

四川錄

いる（

治されて

起が開

新たな

うけつ

9蜂起を

4.

「在日韓国人—政治犯」の

即時斬放を要求する

東　て躍起となり、その日〔韓〕共同治安体制の強化をはかつてゐるのだ。　昨年の神奈川骨となつてゐる。

我われは、日帝の侵略反革命攻撃の一環と

してある。かたを日一朝一日に安泰帝帶を敗
威を叫び、固として打ち破り、南朝鮮人民、在日朝鮮人
ことで自ら民の反朴、民主回復の闘いとの連帶をかち取
つてゆかねばならぬ。」と同詩で、七手七

北の好戦性・七華青闘の批判によって示された、在日アーバンの真の連帯とは、向かという問題

ある。と、そのことを総括し、教訓としてかち取ることには、日帝なしには眞の連帶などありえないことを確認していることで、しなければならない。

である。すでに金証言であきらかになつたように、KCI、日本警察・自衛隊は完全に一体となつて「政治犯」をでつづけ、ほとんどの日本人を貰く反対・反日の団体、どうわざなど

朝鮮人民の闘いへの白色テロルを強めている。

「金鍾泌委長とした「韓」日親善協会結成式に参加され、朴を表敬訪問した。この椎名訪「韓」こそは反朴・反日」「統一の闘いに真向うから敵対し、これを共同で屠殺するが

をもつたものであり（椎名エモトを想起せよ）さらに、日帝鮮侵略の大きなステップとなつた浦項製鉄所建設の「立役者」山を中心に、田高をめぐる米帝との帝国主義間争闘の中で、

朝鮮への攻撃をつづめる日本の侵略反革命攻撃である。我々は、かかる大きな歴史の転回点—南朝鮮における民主化運動と、革命运争の前進、日帝—朴の崩壊的危機、日帝の帝国主義的朝鮮侵略と革命への流れを、

みにあつて、「朝鮮侵略反革命を国内戦に転化せよ」の號布陣をうちかためていかねばならない。とりわけ、今秋期の二つの偉大な成果（三里塚労働者統一案）

前進と、反帝・反社帝・反社帝人民集会の大成功の地平の上に、この闘いを強化していかねばならない。イギリスにおけるアイルランド問題や、移民労働者とファシストの激突、フランスの反帝反社会主義運動など、世界の反帝反社会主義運動が、この地平の上に現れてくる。

西ドイツでの移民労働者の決起は、明確に今日の帝国主義における革命闘争の基軸が、「帝国主義と民族・植民地問題」であることを示している。このことに応えうるか否かこそ、いかが改ひかげた決意的な水漬である。帝国主義の侵略又革命の

おこぼれの内に「社会主義」を夢見て、帝国主義の忠実な兵と化した社帝派—社会排外主義を徹底的に粉碎し、さらに鮮北部におけるプロ独立での社会主義建設に敵対し、ある

日帝の侵略を否定する一部反スタ・トロッキズム・中間主義の党派闘争をさらに強化し、日帝の朝鮮侵略反革命を粉碎せ

12.9

破防法・共謀共同粉碎！刑法改悪阻止・保安处分新設攻撃粉碎！ 刑訴法・監獄法・少年法改悪阻止！

塩見・高原両氏保釈要求東京集会へ結集せよ

講演 井上 清氏

我々は、十二月九日に開催される塩見・高原両氏保釈要求東京集会に全員の闘う諸君が結集されることを強く訴える。

八年にも及ばずとする不当な長期勾留を強いられている塩見・高原両氏にかけられている弾圧攻撃は、六〇年代後半の激烈な階級攻勢に対する報復であり、湧き上がる人民の闘いを虐殺せんとする予防反美帝攻撃の頂点に位置している。

本年二月、権力は刑訴法による保釈条件を完全に満たしているにもかかわらず「非転向」を唯一の理由に、地裁段階で許可された塩見保釈を高裁判段階で逆転却下するという暴挙を行ない、ますますその反動性、革命性をあらわしている。

今秋、塩見・高原両氏は、早期西独赤軍によるハイジャック闘争をめぐる西独帝国主義の兵士虐殺を契機として、日本帝国主義は「弁護人抜きの裁判の合法化」をもくろむ攻撃を渡化させている。このような情況の中で、地域に向けた闘う陣型を創出すべく断固とした集会が五〇名の闘う仲間を結集し、かちとられた。

11・12 刑法改悪阻止・保安処分粉碎 現行刑法の破防法化を粉碎せよ

神奈川集会開く

が革命的左翼に対する（なによりも空港反対同盟を中心とする）挑戦であり、断固としてこれを粉碎することを踏まえた基調報告は、まず第一に、今日の刑法改正を知らない。こそこそ刑法の破防法化

は、死刑又は無期もしくは長期三年を超える懲役もしくは禁固にあらざる闘いは一般的な政策阻止闘争としてはなく、現下の階級闘争に対する報復である。

人民の闘いを虐殺せんとする予防反美帝攻撃の頂点に位置してい

る。人民の闘いを虐殺せんとする予

防反美帝攻撃の頂点に位置してい

る。人民の闘いを虐殺せんとする予

防反美帝攻撃の頂点に位置してい